

一志郡地誌
全

特31

214

025188-000-1

特31-214

一志郡地誌

多喜 水之助

村木 正直 / 著

M24

ADC-2582



徑緯



一表郡地誌全

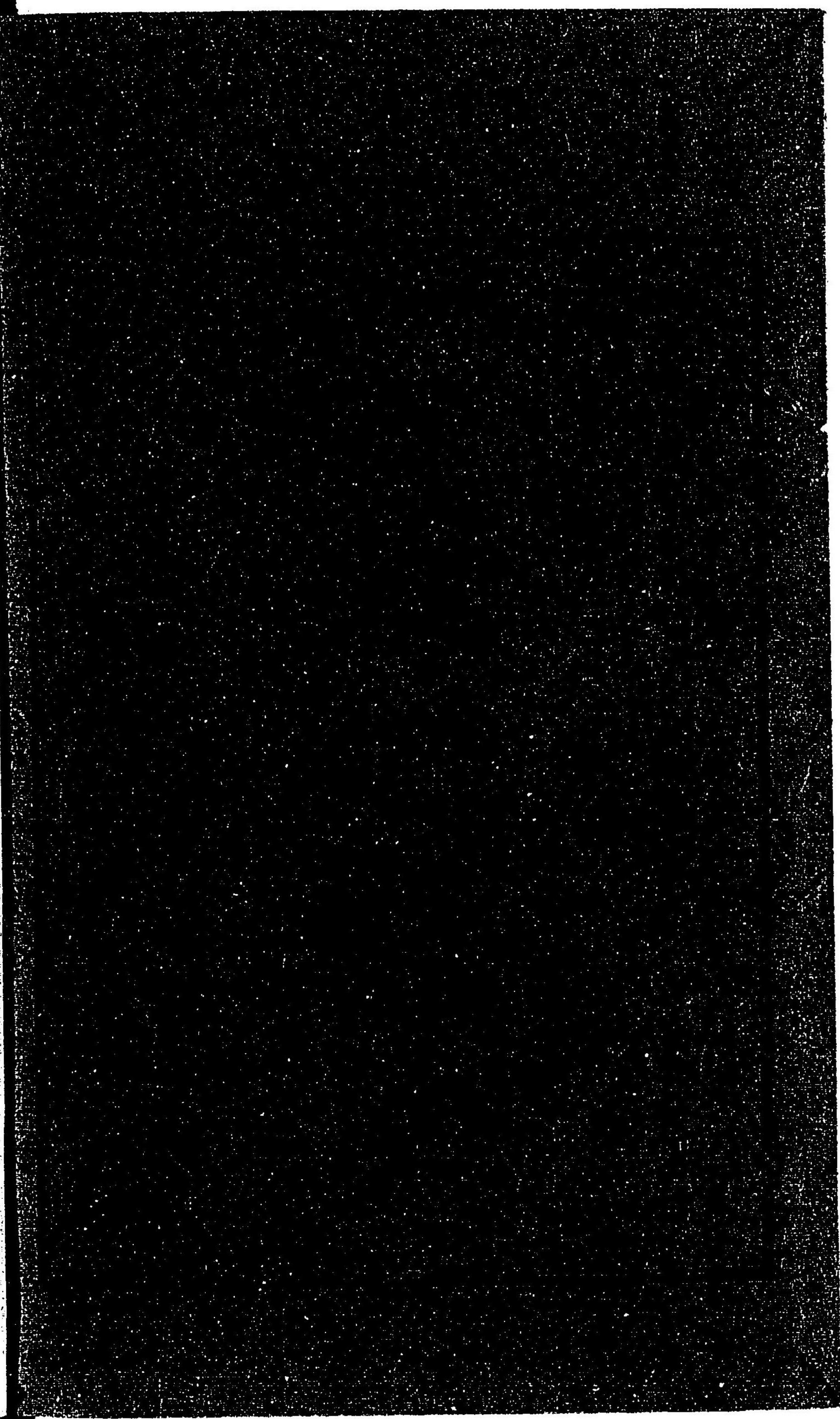
多喜水之助
村木正直
同輯

久居町
和田猪之助
發兌

特31
214

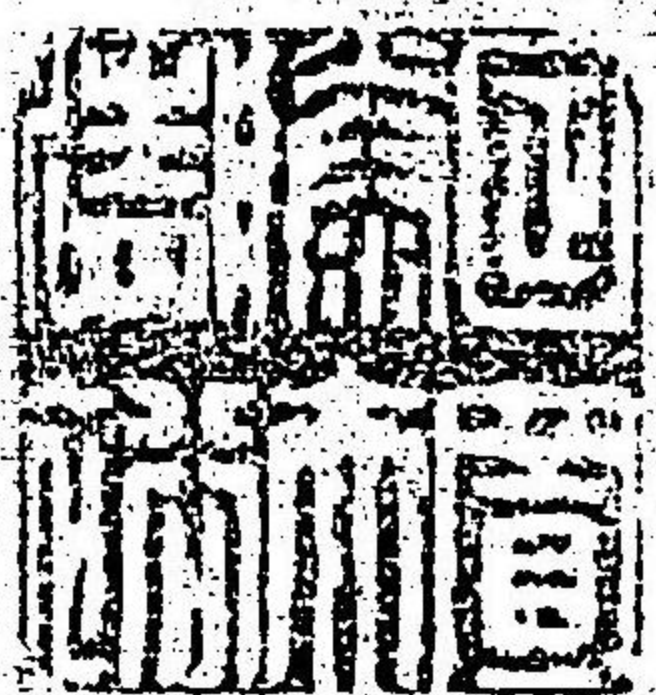


徑
師



明治廿四年
三月

志摩山人題



凡例

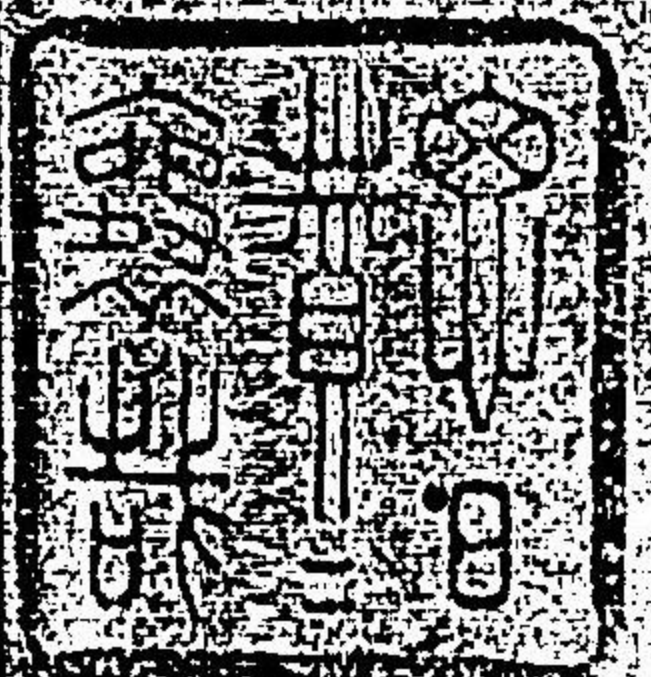
一此書ハ現今一志郡ノ高等小學校及尋常小學校溫習科ノ教科用トナシ生徒ノ讀ミ本ニ供スル目的ヲ以テ編輯セシ所ニシテ爾後新小學校令ノ實施ニヨリテ小學ノ設備、級制及ビ教課等ニ多少ノ變化ヲ生ズルモ尙其高等小學科初級或ハ尋常小學補修科生徒等ノ用書ニ充ツルノ主意ヲ含ミテ之ヲ組ミ立テタルナリ

一此書ハ開發的ノ筆記教授ヲナス勞力ヲ省カンガ爲メ務メテ卑近端緒ノ處ヨリ說ヲ下ダシ生徒ヲシテ誦讀ノ間自ラ事物ヲ了得セシメントスルノ意ヲ以テ作リタルモノナレバ書中第一章地理初歩ノ部ノ如キハ尤容易ニ生徒ノ諸觀念ヲ啓發シ以テ其心ノ興味ヲ買ハンコトヲ圖レルモノナリ

一此書第一章第四面積ノ次ニ本書ヲ讀ム生徒ノ出入スル教場學校ノ事及ビ其所住ノ町村誌ヲ記載スルハ適當ノ順序ナリト雖學校町村ハ固ヨリ一定ノモノニアラズ且ツ一校內スラ教場ノ移轉ニ從ヒテ事實ノ變更スルモノ

明治廿四年三月

志村也志



凡例

一此書ハ現今一志郡ノ高等小學校及尋常小學校溫習科ノ教科用トナシ生徒ノ讀ミ本ニ供スル目的ヲ以テ編輯セシ所ニシテ爾後新小學校令ノ實施ニヨリテ小學ノ設備、級制及ビ教課等ニ多少ノ變化ヲ生ズルモ尙其高等小學科初級或ハ尋常小學補修科生徒等ノ用書ニ充ツルノ主意ヲ含ミテ之ヲ組ミ立テタルナリ

一此書ハ開發的ノ筆記教授ヲナス勞力ヲ省カンガ爲メ務メテ卑近端緒ノ處ヨリ說ヲ下ダシ生徒ヲシテ誦讀ノ間自ラ事物ヲ了得セシメントスルノ意ヲ以テ作りタルモノナレバ書中第一章地理初步ノ部ノ如キハ尤容易ニ生徒ノ諸觀念ヲ啓發シ以テ其心ノ興味ヲ買ハント圖レルモノナリ

一此書第一章第四面積ノ次ニ本書ヲ讀ム生徒ノ出入スル教場學校ノ事及ビ其所住ノ町村誌ヲ記載スルハ適當ノ順序ナリト雖學校町村ハ固ヨリ一定ノモノニアラズ且ツ一校內スラ教場ノ移轉ニ從ヒテ事實ノ變更スルモノ

アルヲ以テ到底之ヲ列記スルヲ能ハズ故ニ之ヲ省畧シテ直ニ第二章ニ移
レリ

一此書第二章ノ部ニハ第三章中用語ノ意義ヲ載セテ其豫習ニ供ス

一人口戸數面積里程及山岳ノ高サ等ハ最近ノ三重縣統計書ニヨリテ之ヲ載
セタリ

一地圖ハ三重縣管内全圖ニヨリテ調製シ之ニ町村地ノ區劃ヲ施シタルモノ
ニシテ且ツ圖面ニ示ス所ノ山川港灣及市街等ノ位置ハ書中ニ記ス所ト符
合センコトニ注意セリ

一此書ハ活字ヲ以テ印刷シタルニヨリ其字詰メノ都合ヲ以テ漢字ノ下傍ニ
加フベキ假名モ正シク之ヲ其下ニ填植スルコトナセリ例之バ「タカサ」ト
云フキハ「高」ノ字ノ下ナル右傍ニ小サク「サ」ノ假名ヲ加フベキナ「高サ」
トナシタルガ如シ

明治廿四年三月

編 者 識

教授者ノ注意

一地理科ヲ教授スルニハ二個ノ目的アリ一ナ特別目的トシ一ナ一般目的ト
ス特別目的ハ即地上自然ノ状態及住民ニ關シテ普通ノ智識ヲ生徒ニ與ヘ
以テ後來處世ノ業務ヲ資ケントスルニアリ一般目的ハ即生徒ニ想像ノ働
キヲ起サシメ以テ其心力ヲ練磨セントスルニアリ此ノ如ク二ツノ目的ア
リト雖一般目的ハ副貳的ノモノニシテ地理ノ教授正シク施サレ事實ノ教
示確ニ行ハル、ニ從ヒ自其目的ノ成就スルニ至ルモノナリ

一想像力ハ觀察經驗ニ基因スルモノナルガ故ニ生徒ヲシテ地理上ノ事實ヲ
想像セシメンニハ先ツ其身邊ヲ圍繞セル事物ニ付キテ十分ノ觀察ヲ遂ゲ
シメンコト必要ナリ

一地理初歩ハ其教フベキ事柄極メテ卑近ニシテ簡短ナルガ如クナレモ教授
ノ際生徒ヲシテ明白ニ會得セシムルノ容易ナラザルコト猶尋常科初年ノ
小兒ニ始メテ假字ヲ教フルガ如クナレバ教授者尤力ヲ盡シテ懇切周到ニ

指教シ以テ生徒ノ直實ニ感得センコトヲ務ムヘシ

一 地誌ヲ授クルニハ先ツ地圖ヲ掲ゲテ其研究ヲ遂ゲ次ニ生徒ニ向ヒ順正ナル序ニ從ヒテ問ヲ試ミ最後ニ書物ヲ開キテ其讀講ヲ授クルカ若シクハ生徒ヲシテ之ヲ讀講セシムベシ

一 地理上ノ事實ヲ授クルハ之ニ系累セル諸般ノ談話ヲ添ヘ宜シク教授ニ興味ヲ加ヘテ生徒ノ觀念ヲ擴起セシメ其記憶ヲ鞏固ナラシメザルベカラズ殊ニ機ニ投シテ歷史上或ハ殖産上ノ事實ヲ附話シ以テ郷土ヲ愛シ郷土ヲ利スルノ念ヲ起サシメンコト尤肝要トスル所ナリ

一 地理科ニハ必ズ生徒自身ヲシテ地圖ヲ描寫セシメ以テ其記憶ヲ正確ナラシメザルベカラズ而シテ時々其復習ヲ行ヒ又實用的ノ疑問ヲ發シテ練習ヲ完カラシムルヲ宜シトス

一志郡地誌

多喜水之助 同輯
村木正直

第一章 地理初步

第一、上下前後左右

此圖ハ田家ノ景色ナリ前ハ清キ流レニ臨ミ後ハ高キ山ヲ負フ右ニハ花園アリテ四季時々ノ花ヲ眺ムベシ左ニハ菜圃ヲ設ケテ各種ノ野菜ヲ作レリ屋根



第一章地理初步

ノ上ニ止ルハ二羽ノ鳥ニシテ擔ノ下ニ眠レルハ
一疋ノ犬ナリ」諸子ハ上下前後左右ト云フヲチ
知レリヤ凡テ人ノ立ツトキハ頭ノ方ハ上ニシテ
足ノ方ハ下ナリ顔ノ方チ前トシ背ノ方チ後トス
又文字チ書クトキ常ニ筆チ執ル所ノ手ハ右ニシ
テ一方ノ手ハ左ナリ然レドモ此等ノ言葉ハ畢竟
二物ノ位置チ比較シテ云ヘルモノナルガ故ニ前
ト定メタルモノモ其前ヨリシテ云ヘバ後ニシテ
下トスルモノモ其下ヨリシテ見レバ上トナリ左
モ亦其左ヨリスレバ右トナルモノナリ又左右ハ
方向ノ反對スルニヨリテ變ズルモノナレバ諸子

ガ圖ヲ見ルトキ彼ノ右ハ我ノ左ニシテ我ノ左ハ
彼ノ右ナルコトヲ忘ルベカラズ

第二、方位

朝日ノ出ヅル方ハ東ナリ朝日ニ向ヒ兩手チ開キ
テ立ツトキハ後ノ方ハ西ニ當リ左手ハ北ノ方チ
指シ右手ハ南ノ方チ指ス東西南北ノ四方ハ之チ
主位ト云フ主位ノ外ニ東北、東南、西北、西南ト
稱スルコトアリ此等ハ皆兩主位ノ中間ニ當レル
方ニシテ之チ間位ト名ヅク故ニ地球ノ方位ニハ
主位ト間位トアルモノナリ

第三、距離

或日曜日ノ朝兄一郎ハ弟次郎ト共ニ跳越ノ遊ビ
ヲナサントテ庭ニ出デ櫻ト柳ノ木トノ間ヲ以テ
繩張ノ場所ト定メタリサテ二人ハ之ニ用フベキ
繩ノ長サヲ測ランガ爲ニ各其間ヲ步行シケルガ
次郎ハ十二歩ノ長サアル繩ヲ用フベシト云ヒ一
郎ハ十歩ノ繩ニテ足レリト云ヒ互ニ自説ヲ守リ
テ相争ヒタリ「父ハ之ヲ聞テ出デ來リ二人ヲ制
シテ曰ク今我汝等ニ距離トハ如何ナル義ニテ如
何ニシテ之ヲ測ルベキカヲ教ヘントス其汝等ノ
張ラントスル繩ノ長サハ櫻ト柳ノ木トノ間ノ空
處ヲ占ムルモノニシテ之ヲ兩木ノ間ノ距離ト云

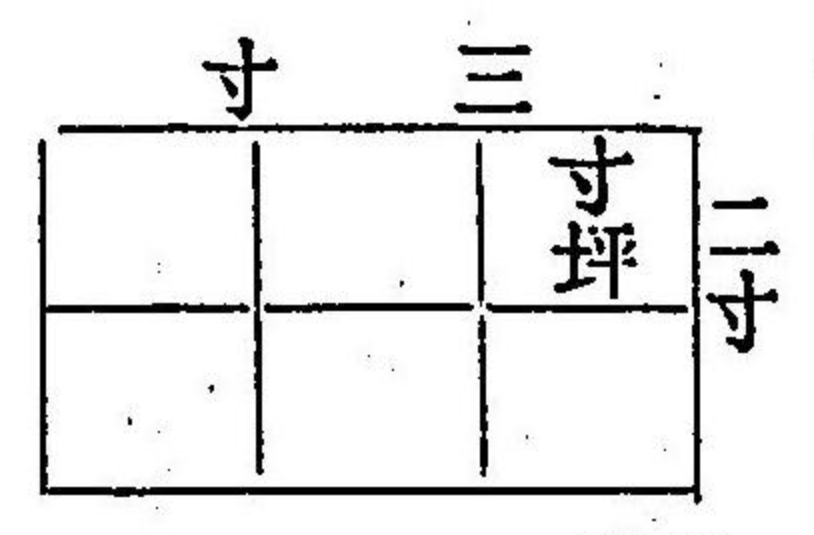
フナリ故ニ距離トハ一點ヨリ他ノ一點ニ達セル
空處ノ直徑ヲ指シテ云ヘルモノナリト知ルベシ
而シテ此距離ヲ測ルニ汝等ノナセン如ク步數ヲ
以テスルトキハ次郎ノ云ヘル十二歩ハ次郎一人
ノ定メニテ一郎ノ十歩ト云ヘルモ亦一郎一人ニ
限リテ何人ニモ普通ナル測法トハ云ヒ難シ何ト
ナレバ一步ノ長サハ年齢ノ長幼ト身体ノ大小ト
ニヨリテ各人同ジキモノニアラザレバナリ故ニ
何人ニモ普通ナランコトヲ欲セバ宜シク一定ノ
長サアル具ヲ撰ビテ測ルベシト「諸子ハ其具ノ
何タルヤヲ知レリヤ其具ハ即物尺ニシテ物尺ニ

ハ鯨尺ト田尺トアレ尺距離ヲ測ルニハ田尺ヲ以テス一尺ノ曲尺ハ之ヲ十分ニ分チ一寸ヲ十分シテ一分トナシ又一分ヲ十分シテ一厘トナセリ此一尺ノ長サヲ六倍セバ六尺トナル距離六尺アレバ之ヲ一間ト云ヒ六十間アレバ之ヲ一町ト云ヒ三十六町ニ至リテ之ヲ一里ト云フ距離ノ長キモノハ多ク里ヲ以テ測ルモノナリ

第四、面積

此處ニ懸ケタル黑板ノ表面ハ諸子ガ持テル石盤ノ表面ヨリ廣シト雖教場ノ床ノ面ニ比スレバ狭シト云フベシ斯クノ如ク物ノ表面ニハ廣狹ノ差

異アリト雖或方法ニヨリテ之ヲ測定スルニアラザレバ正シク其度ヲ知ルコト能ハズ所謂面積トハ廣狹ノ度ヲ測定シタルモノ是ナリ面積ヲ求ムルニハ物ノ形狀ニヨリテ種々ノ方法アリト雖縱横ノ長サヲ相乘スルニ基ツクモノトス譬へバ縦二寸ニシテ横三寸アルモノ、面積ハ六方寸ニシテ即一寸四方ノ面積(寸坪)六個ヲ含有スルモノナリ



試ニ圖中寸坪ノ區數ヲ數フレバ之ヲ知ルコトヲ得ベシ又別ニ尺坪トテ寸坪ヨリ大ナルモノアリは一尺四方ノ面積ヲ呼ベル

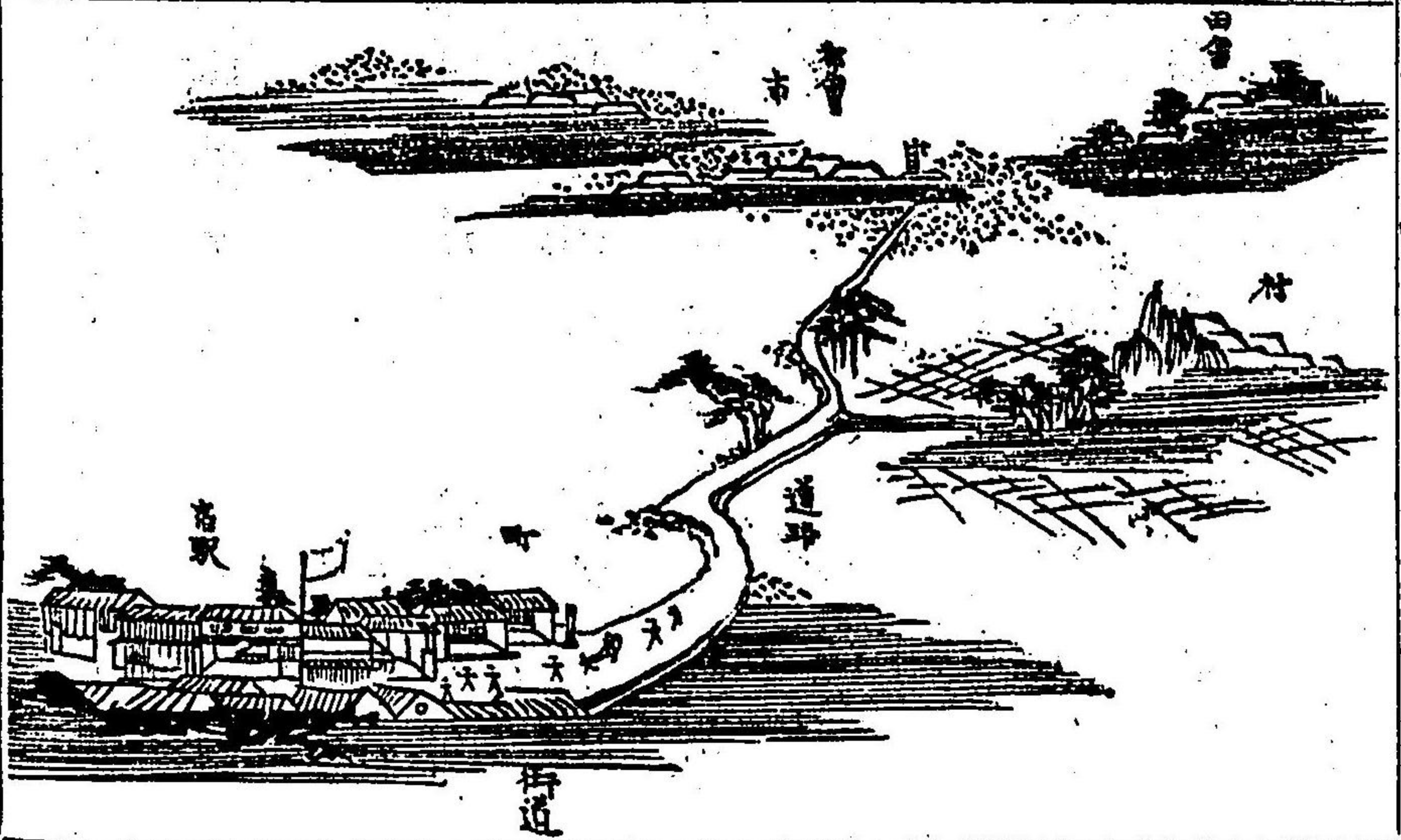
ナリ然レ尺寸坪ト尺坪トハ共ニ小ナル物ノ面積
ヲ測ルキ用フル言葉ニシテ大ナル物ノ面積ヲ測
ルトキハ更ニ異ナル名稱ヲ用フルヲ常トス即建
家ノ地面ニハ一間四方ヲ一坪ト云ヒ山林原野田
圃等ニハ一間四方ヲ一步ト云フ一步ハ一坪ト其
面積同ジクシテ三十歩アレバ一畝ト呼ビ十畝ア
レバ一反トシ十反アレバ一町トス又國郡ノ面積
ニ至リテハ一里四方ヲ一方里ト名ヅク是其土地
ノ面積甚廣キガ故ニ里坪ヲ用ヒタルモノニシテ
幾百方里或ハ幾十方里ト稱スルトキハ里坪ノ數
ヲ示スモノトス之ヲ要スルニ物ノ面積ヲ擧グル

トキ種々ノ名稱ヲ用フルハ皆其基タル縱横ノ長
サノ呼ビ方ニ異ナル所アレバナリ

第二章 用語ノ意義

第一、

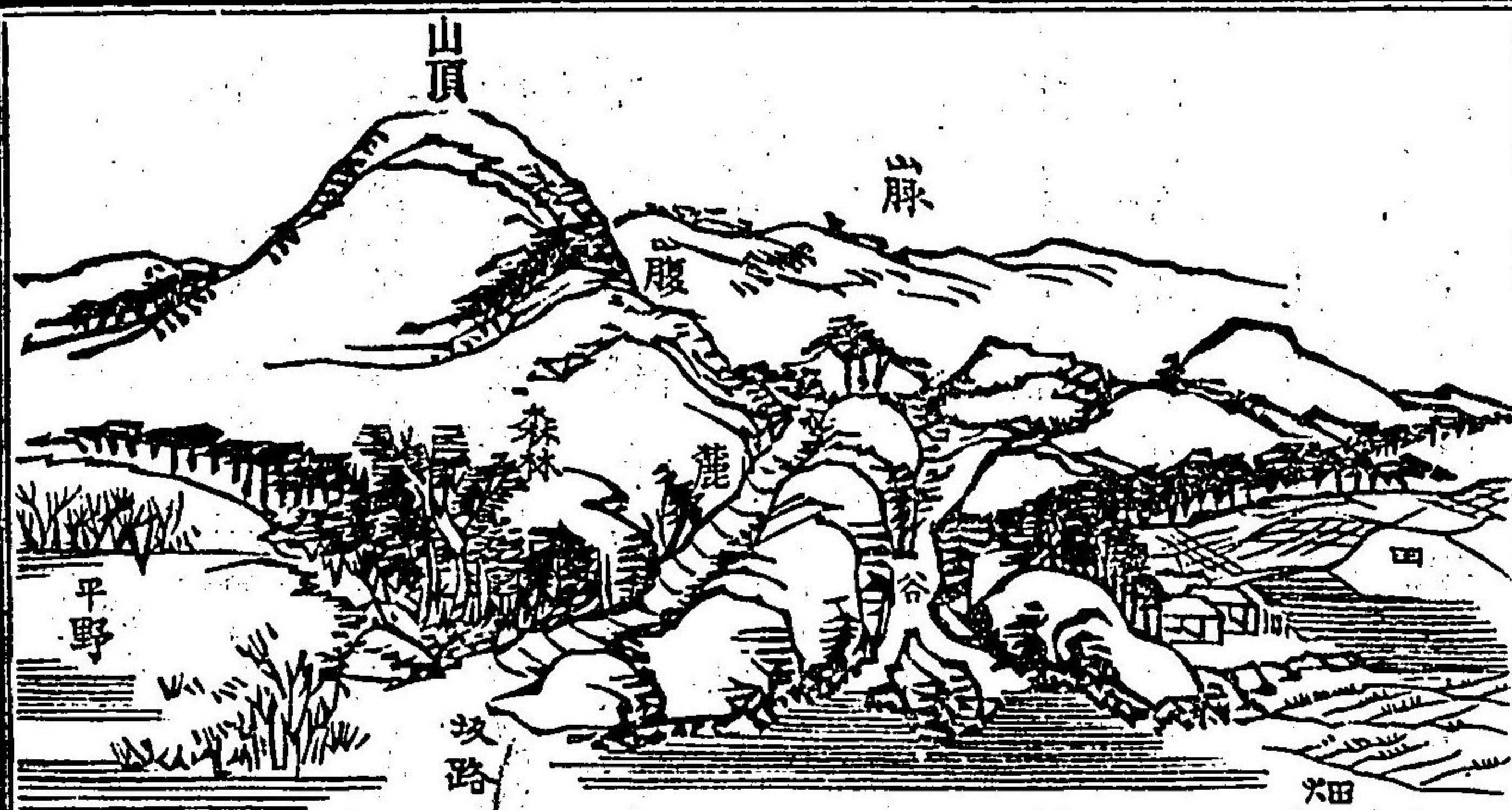
家門ノ外ニ出ツレバ人ノ往來スル所アリ之ヲ道路ト云ヒ道路ノ廣クシテ旅人車馬ノ通行頻繁ナル所ヲ街道ト云フ街道ニ當リテ旅客ノ爲ニ車馬ノ繼立宿泊ノ需メヲ辨ズル所アリ之ヲ宿驛ト稱ス宿驛ニハ人家ノ少キモノアリ又



多キモノアリ凡テ人家ノ少シク集リタルモノヲ村ト云ヒ村ヨリモ大ニシテ市店多キモノヲ町ト云ヒ町ノ更ニ繁昌ナルモノヲ市ト云フ又人家ノ少キ地ヲ總稱シテ田舎ト名ツケ其多キ地ヲ總稱シテ都會ト名ツケルヲアリ我ガ郡ニハ街道アリ宿驛アリ又町村アリト雖市ト呼ブベキモノ一モ之ヲ見ズ

第二、

土地ノ平坦ナルモノヲ平地ト云ヒ平地ノ廣クシテ草ノ生ヒ茂リタルモノヲ原野ト云フ穀物蔬菜ヲ植エタル所ヲ田畑ト云ヒ菓樹花卉ヲ植エタル



所ヲ園ト云フ土地ノ一帯ニ
高キモノヲ高地ト云ヒ其一
帯ニ低キモノヲ低地ト云フ
地上ニ樹木ノ莧生セルモノ
之ヲ森林ト名ヅケ土石ノ高
ク峙テアルモノ之ヲ山ト名ヅ
ク山ノ低キヲ丘或ハ陵ト名
ヅケ山ノ聳エタルヲ峯或ハ
嶽ト名ヅク山ノ多キ土地ヲ
山地ト唱ヘ山ノ多ク連リテ
長ク亘レルモノヲ山脉ト唱

フ山ノ尤高キ所ヲ山頂ト
稱シ山ノ下邊ヲ山麓ト稱
ス山頂ト山麓トノ間ヲ山
腹ト呼ビ山腹ノ道ヲ坂ト
呼ビ兩山ノ間ヲ谿谷ト呼
ブ

第三

地上ヲ流ル、水ヲ川ト稱
ス其細小ナルモノハ溝ト
云ヒ其巨大ナルモノハ江
河ト云フ川水ノ始メテ流



出スル所ヲ源ト云ヒ其注入スル口ヲ河口ト云フ
又源ニ近キ方ハ之ヲ上流ト名ツケ河口ニ近キ方
ハ之ヲ下流ト名ツク川ノ上流ニ湖ルキハ山多ク
又谷多シ谷ノ間ニハ水ノ流レ下ルモノアリ之ヲ
溪流ト云ヒ溪流ノ急ニ落下スルモノヲ瀑ト云フ
溪流幾個モ相集レバ則川トナル川ノ源ハ又湖ニ
出ヅルモノアリ湖ハ陸地ノ窪キ所ニ水ノ溜リタ
ルモノニシテ其小ナルヲ池沼及澤ト云フ地ニハ
又水ノ涌出スル所アリ之ヲ泉ト名ツケ泉水ノ温
カナルヲ温泉ト云フ温泉ハ多ク藥氣ヲ帶ブヲ以
テ之ニ浴スレバ諸病ヲ治スルノ効アリ

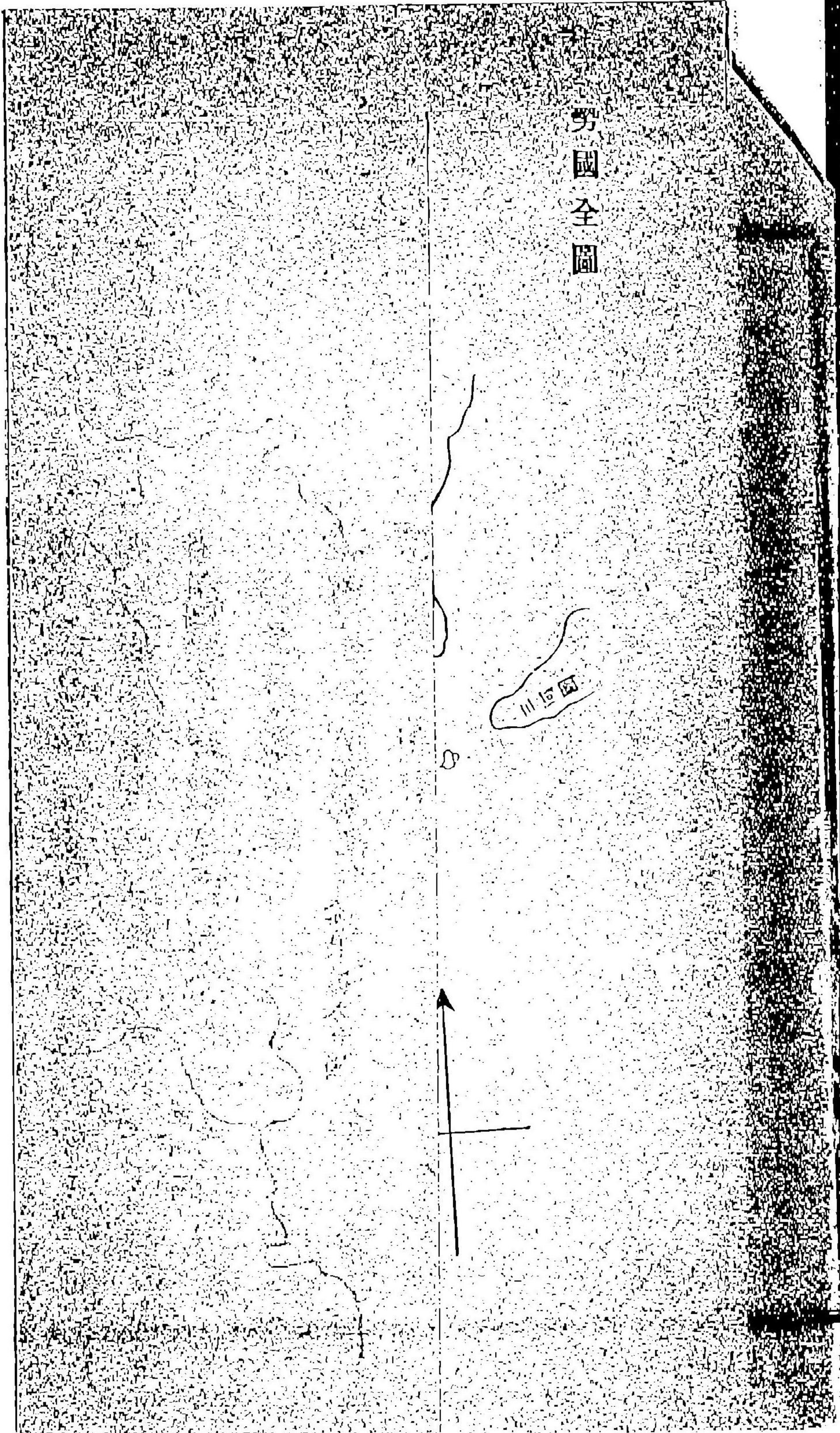
第四、

吾人ノ住居スル所ハ即陸
地ナリ陸地ハ廣大ナルモ
ノニシテ其周圍ニハ渺茫
タル潮水アリ之ヲ海ト云
フ陸地ノ大ナルモノヲ大
陸ト云ヒ其小ナルモノヲ
島ト云フ我ガ日本ノ如キ
ハ即島國ナリ海ノ極メテ
大ナルモノヲ大洋ト云ヒ
海ノ一部分深ク陸地ニ入

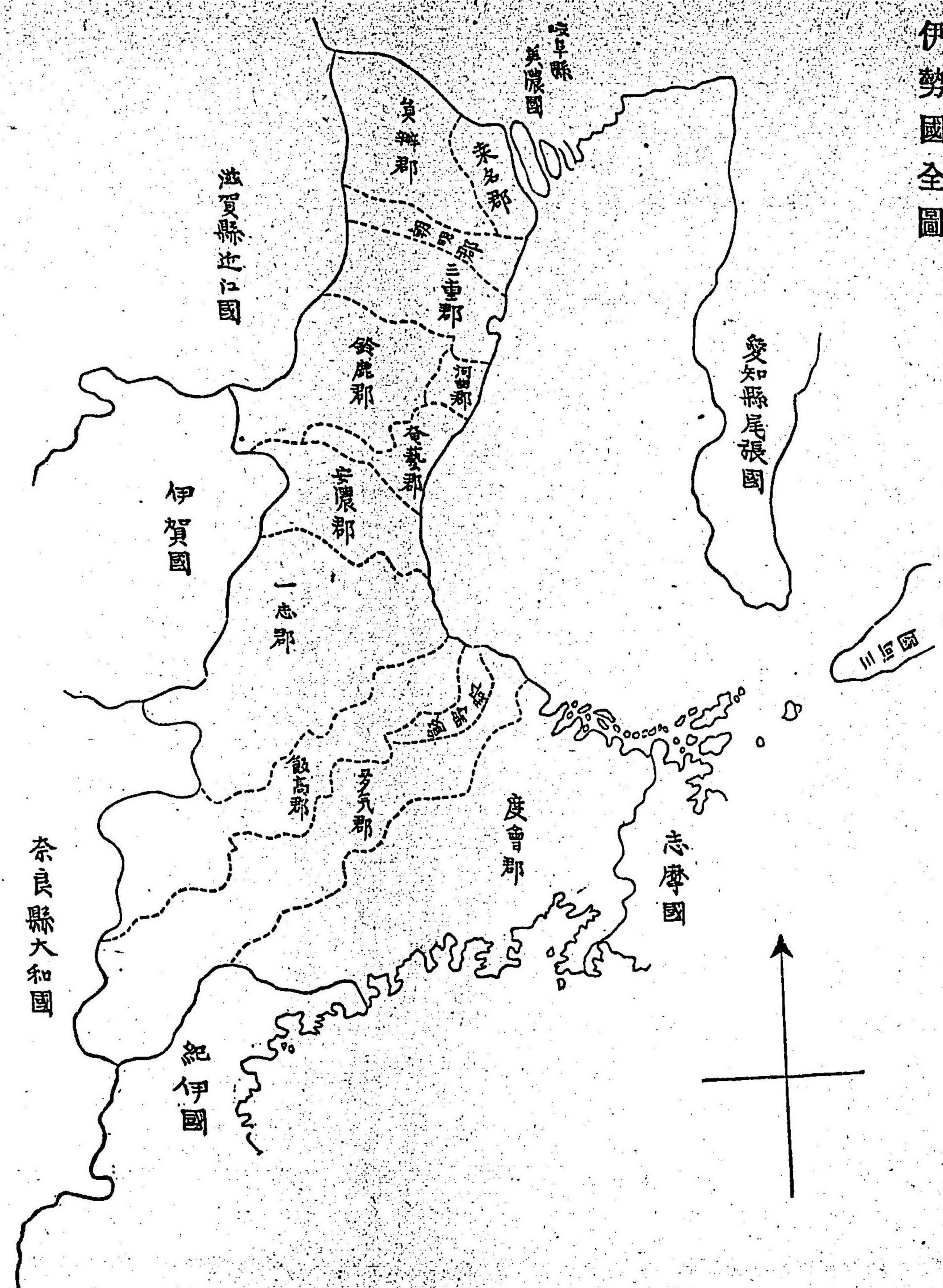


リ込ミタルモノヲ内海ト云フ伊勢海ノ如キハ即
 内海ナリ陸地ノ海ニ接スル處ハ之ヲ海岸ト云ヒ
 又海濱ト云フ海濱ノ内邊ニ灣入セル所ヲ灣ト名
 ツケ灣ノ小ニシテ船舶ヲ碇泊スルニ便ナル所ヲ
 港ト名ツク又海中ニ突キ出テ、三方ニ水ヲ繞ラ
 セル陸ヲ半島ト稱シ海中ニ尖リ出デタル陸ノ一
 端ヲ岬或ハ崎ト稱ス其他海陸ノ形勢ニ從ヒテ種
 カノ名稱アレドモ今之ヲ略ス

男國全圖



伊勢國全圖



滋賀縣近江國

伊賀國

愛知縣尾張國

川國

奈良縣大和國

紀伊國

度會郡

志摩國

桑名郡

三河郡

鈴鹿郡

志摩郡

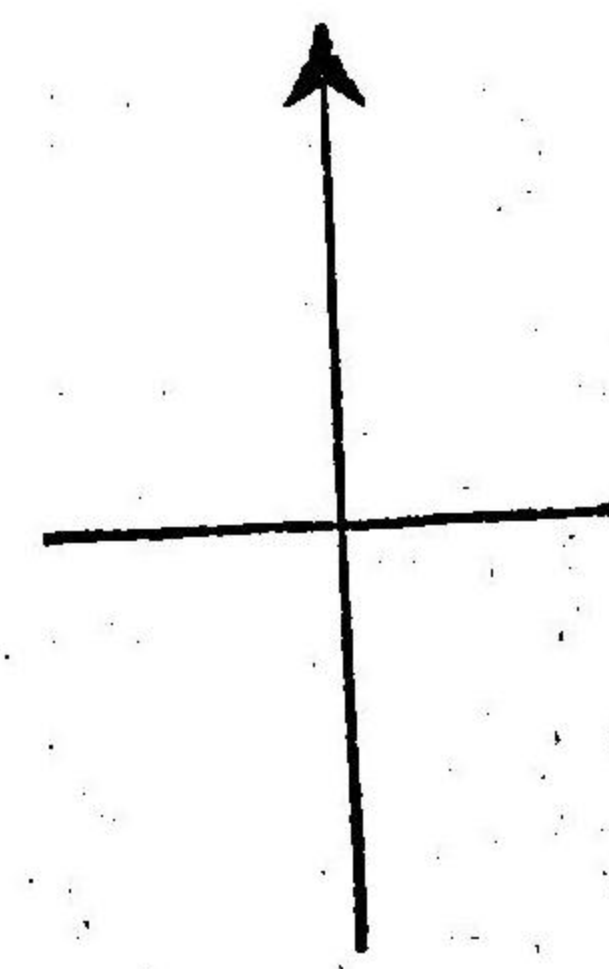
一志郡

紀伊郡

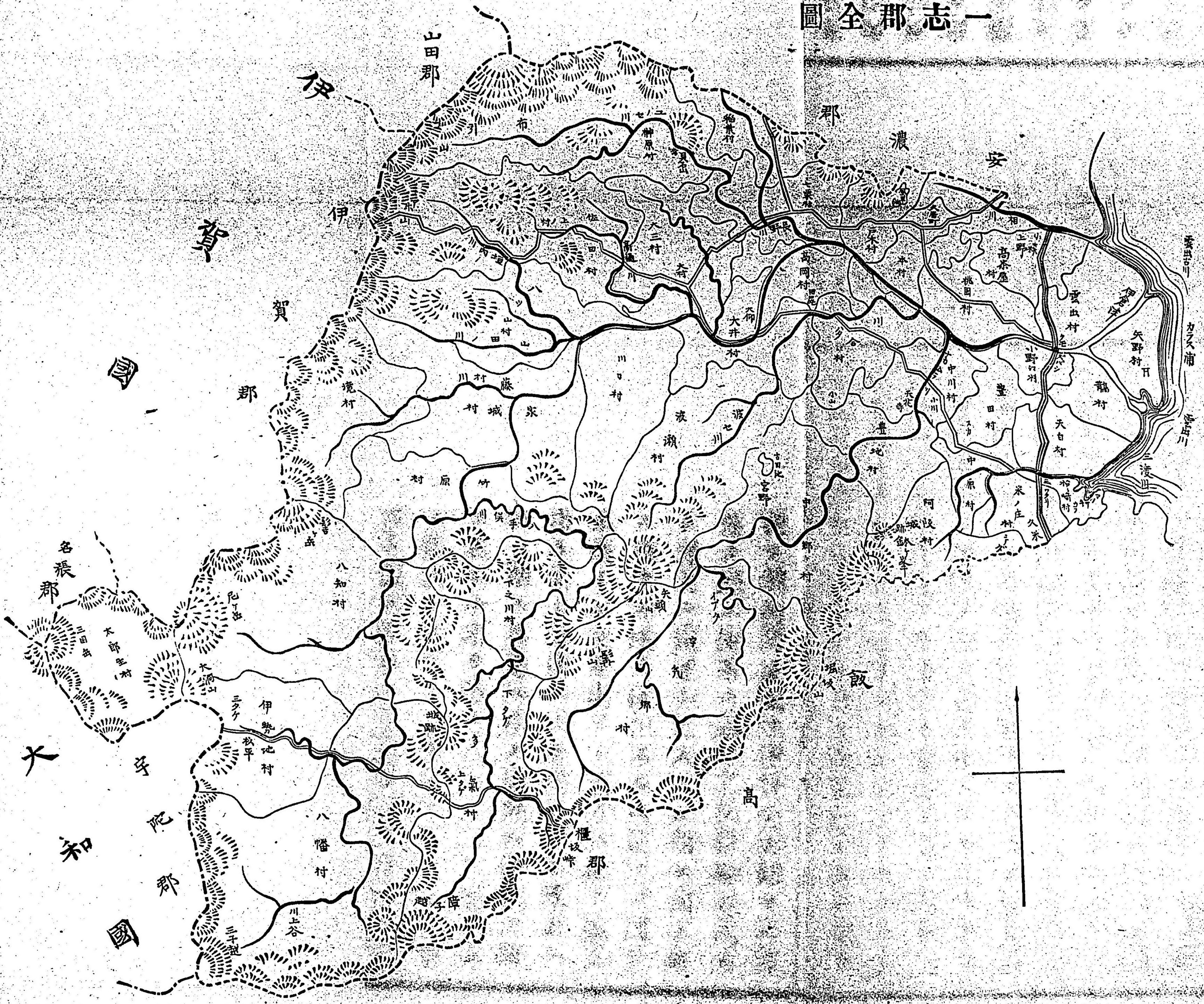
志摩郡

志摩郡

志摩郡



圖全郡志一



第二章 一志郡地理

第一、位置境界

本郡ハ殆ド伊勢國ノ中央ニ位シ北ハ安濃郡ニ隣
リ西ハ一帯ノ山脈ヲ隔テ、伊賀大和ノ兩國ニ接
シ南ハ飯高郡ニ界シ東ハ伊勢ノ内海ニ濱ス

第二、地形面積

東方海岸ハ土地最狹ク西方ニ至ルニ從ヒ漸次廣
ガリテ其幅ヲ増スガ故ニ地形恰モ三角形ヲナス
周回三十四里十九丁余東西ノ直徑ハ廣キ處七里
三丁狹キ處五里二十二丁ニシテ南北ノ直徑ハ廣
キ處六里狹キ處三里七丁ナリ面積三十六方里ア

リテ其廣サ度會郡二次ク國內第二ノ大郡ニシテ
殆下國土ノ六分ノ一ヲ有セリ

第三、區劃戶口

郡内ヲ區分シテ一町二十八ヶ村トナス

久居町、本村、桃園村、戸木村、七栗村、稻葉村、
柳原村、大三村、大井村、川口村、佐田村、八ッ山村、
境村、家城村、竹原村、八知村、太郎生村、伊勢地村、
八幡村、多氣村、下ノ川村、宇氣郷村、波瀨村、中郷村、
豐地村、川合村、高岡村、中川村、豐田村、中原村、
阿坂村、米ノ庄村、松ヶ崎村、天白村、鶴村、小野江村、
雲出村、高茶屋村、矢野村、

戶數壹万五千百貳十八、人口八万四千八十余田
圃壹萬七百三十二丁山林貳萬七千貳十四丁原野
四百貳丁餘アリ

第四、地勢

郡中山多クシテ土地高シ殊ニ西部地方ハ峯巒相
重ナリ岡陵起伏シテ往々谿間ニ平地ヲ見ルノミ
然レドモ東部ハ海岸ニ近ヅクニ從ヒ漸ク低クシ
テ遂ニ平坦トナル

一山脈、郡ノ西北隅ニ起リ一ハ東ニ赴キ丘陵起
伏シテ安濃一志ノ郡界トナリ一ハ南ニ走リ蜿蜒
綿亘シテ西境ヲ限リ郡ノ西南隅ヨリ分レテ東西
ノ二派トナル其西スルモノハ郡地ヲ去レドモ其
東スルモノハ長ク延キテ南境ニ連レリ就中西境
ノ山脈ハ尤高峻ニシテ伊賀大和ニ通ズルノ路甚

險難ナリ南境ノ山脉ニモ亦高山所々ニ聳エ支脉
多ク北ニ出デ、郡内ニ亘レリ

二山岳、三國ヶ岳ハ山勢伊勢伊賀大和ノ三國ニ
跨リ大洞山三子越ハ大和ニ布引山髻ヶ岳尾ヶ岳
ハ伊賀ニ跨リテ共ニ西境ノ山脉中ニアリ尾ヶ岳
最高クシテ海面ヲ抜クコト五千四百尺余之ニ次
グモノヲ髻ヶ岳トス布引山ノ南ニハ阿保山ノ險
アリ是即垣内ヨリ伊賀國伊勢地ニ出ヅルノ通路
ナリ障子越櫃坂峠堀坂山鉢ヶ峯等ハ南境ニ峙チ
矢頭山髻山ハ殆下郡ノ中央部ニ並立セリ

貝石山ハ柳原村ニアリテ郡ノ北方ニ聳ユ其頂高



貝石山之圖

カラズト雖山中ヨリ貝屋
ノ化石ヲ産スルト山麓ヨ
リ温泉ノ涌出スルトニヨ
リテ其名頗ル著シ「御嶽
山ハ郡ノ西南部ニ多氣ニ
アリ山上眞福院ニ至ル十
三丁余ノ間ハ道ノ兩傍ニ
沿ヒテ櫻樹凡一千五百株
アリ春候ノ花景夏時ノ綠
陰共ニ行人ノ杖ヲ止メシ
ムルニ足ル此山之ヲ以テ

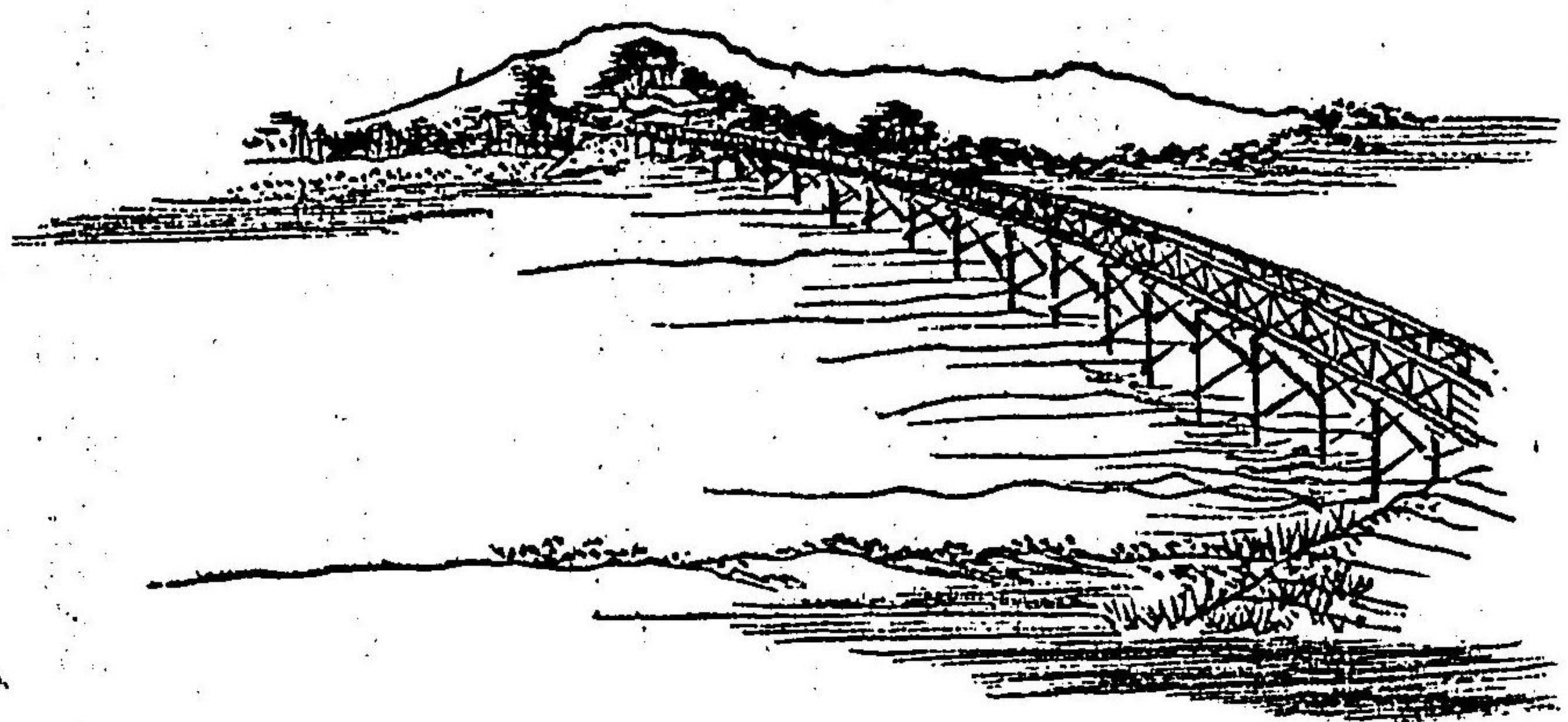
郡中ニ名アリ古老傳ヘテ此櫻ハ昔時國司北畠氏ノ大和吉野山ヨリ移植セシモノナリト云ヘリ以上ノ諸山ハ皆草木繁生シテ薪炭ヲ給シ猪鹿兎ノ諸獸及ビ雉山鳥ノ諸鳥ヲ産スルコト少カラズ又山彙中所々ニ大ナル森林アリテ松杉檜等ノ用材ヲ出スコト夥シク殊ニ波瀨谷ハ有名ナル林區ナリ總テ山間ノ高地ハ平カナラザレドモ地味瘠薄ナルニハアラズシテ茶煙草楮葛等ノ栽培ニ適シ椎茸漆等ヲ出スコトモ亦多シ

三水脈、

I 川流、雲出川ハ川上谷不動ヶ瀧ニ發シ北流

シテ八手俣川藤村川山田野川垣内川ヲ併セ東北ニ赴キテ高樋川長野川ト合ヒ更ニ東南流シテ波瀨川中村川ノ水ヲ受ケ終ニ東ニ下ダリ矢野村ヲ抱キテ香良洲浦ニ注グ國內第三ノ大川ニシテ長サ十二里余分流ヲ雲出古川ト云フ上流ハ岩石多ク水勢急ニシテ僅ニ筏ヲ通ズルニ過

雲出橋之圖



志 釋 地 誌
ギズト雖川口村ヨリ河道大ニ廣マリ流勢緩ニ
シテ舟楫ノ便アリ通船里程
五里十丁其下流ニ架スル所ノ雲
出橋ハ伊勢街道中著名ノ長橋ナリ

瀬戸ヶ淵ハ川口村ト家城村トノ境ニアリ雲出
川ノ上流此處ニ至リテ兩岸相迫リ俄ニ水勢ヲ
扼シ其下港ヘテ深淵トナル奇岩怪石所々ニ突
出シ青松其上ニ生ズ郡内勝地ノ一ナリ

此川ハ國ノ中央ニアルガ故ニ之ニヨリテ伊勢
ヲ南北兩部ニ分チ南勢北勢ト稱ス今ヲ去ルコ
ト五百余年前南朝廷元三年北畠顯家、賊將高
師泰細川頼春ヲ雲出川ニ討チ破リシコトハ正

史ニ載スル所ナレドモ其戰趾ニ至リテハ今之
ヲ詳ニスルコトヲ得ズ

三渡川ハ郡ノ南方ニアリ水源近キガ故ニ其流
甚小ナリ東流シテ松崎浦ニ注グ

以上ノ諸川ハ皆香魚鯉鮒鰻等ヲ産スルコト多
ク就中香魚ハ其最タルモノト云フベシ

Ⅱ池沼、郡ノ北部戸木村ニ風早池アリ周回殆
ド一里其流末ヲ相川ト云フ安濃一志ノ郡界ヲ
ナセリ又南部宮野ニ古田池アレドモ其大サハ
風早池ニ及バズ

Ⅲ井水、本郡ニハ諸川及ビ池沼ヨリ分流スル

所ノ井水數多アリト雖其最著シキモノハ雲出井ナリ水路ノ長サ四里八町三十間アリテ沿流數ヶ村ノ田地七百二十九丁餘ヲ灌溉ス其他尙ホ新井、笠松井、古田井、須賀井、高野井、南家城川口井、溜池井等有名ナル井水アリ此等ノ井水モ亦皆近傍ノ田ヲ灌溉スルヲ以テ郡内水利ニ乏シキ所ナク地能ク肥エテ最米作ニ適セリ
皿鑛泉、鑛泉ノ著ハレタルモノハ榑原ノ湯トナス貝石山ノ麓ニアリテ湯ノ瀨川ノ南岸ニ當リ山水ノ景色ニ富メルヲ以テ夏日浴客ノ來ルモノ甚多シ此泉ハ華氏ノ寒暖計七十五度半ノ

溫度ヲ有シ尤皮膚病ニ効驗アリト云フ

四原野、郡内ニ北嬉野南嬉野小森野等ノ平野アリト雖皆面積小ナリ其中北嬉野ヲ以テ稍廣シトス郡ノ東南部ニ位シテ小川須賀ノ兩地ニ跨リ廣サ十二丁步アリ近時之ヲ開墾シテ盛ニ穀類蔬菜ヲ栽培セリ

五海岸、海岸ハ彎曲少ク渚遠クシテ波穩ナリ

一浦、雲出川口ニ當リテ香良洲浦アリ此浦ハ白沙青松長ク連リ内海ノ白帆、伊勢尾張ノ諸山皆眼中ニ集ル眺望極メテ宜シク實ニ縣下ノ勝地ト云フヘシ其林中ニ縣社アリ香良洲神社

ト云フ欽明帝ノ御宇
創建セシモノニシテ
稚日女命ヲ祀レリ春
時人ノ來リ詣ヅル者
頗ル多シ又三渡川ノ
口ニ當リテ一ノ浦ア
リ和船ノ碇泊スル所
ニシテ之ヲ松崎浦ト
云フ

Ⅱ漁場、沿海ノ各地
ハ皆捕魚ノ利アリ殊

ニ矢野松崎伊倉津ノ海岸ハ有名ノ漁場ニシテ
鱈鯢ノ産出甚多シ

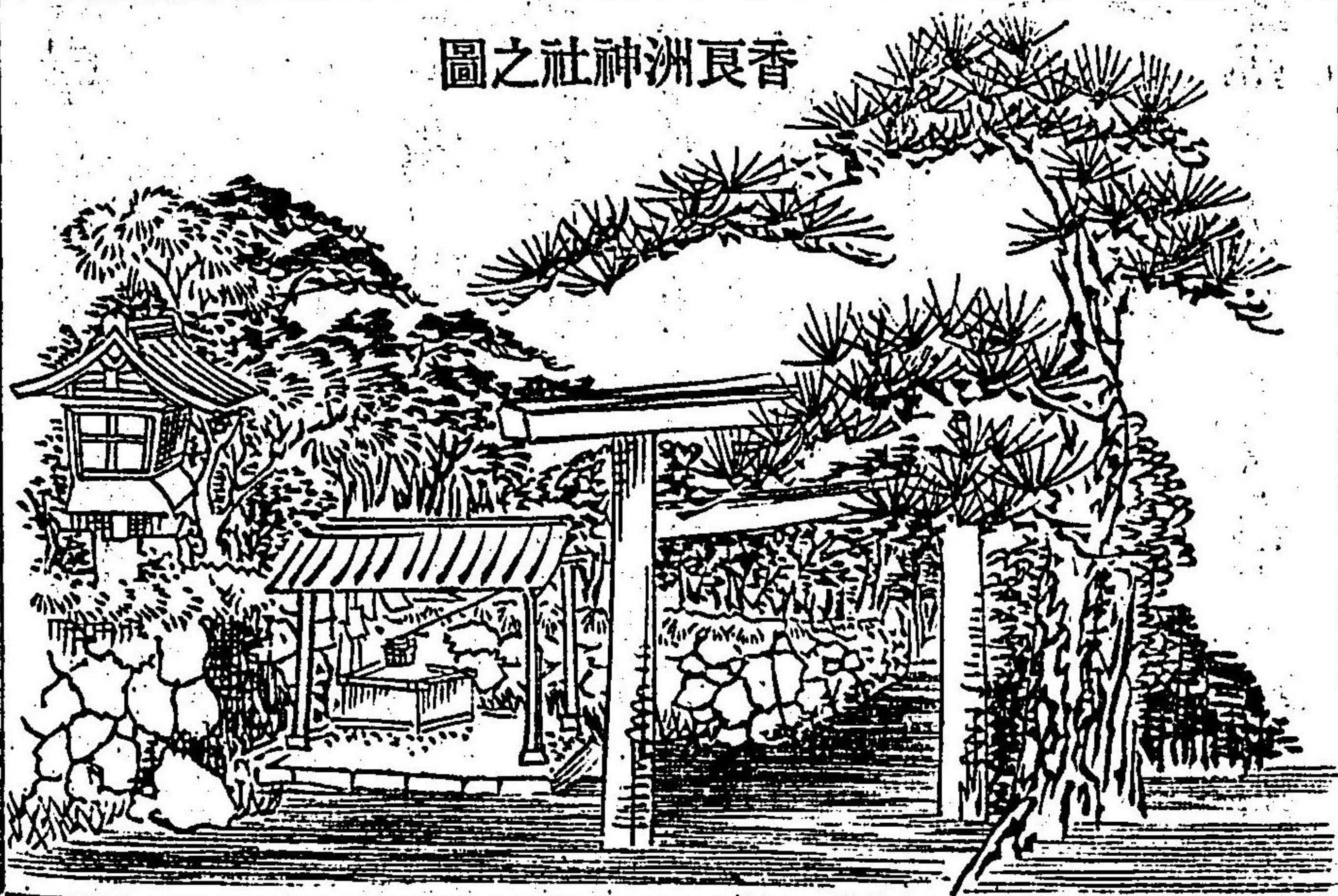
第五、氣候

本郡ハ伊勢國ノ中央ニ位シ西、山ヲ負ビ東、海ニ
臨ムガ故ニ寒暖其中ヲ得テ氣候頗ル人身ニ適セ
リ即年内溫度ノ最高點ハ華氏ノ九十六度ニシテ
最低點ハ三十度ノ内外ニ出入セリ

第六、地利

土壤一般ニ肥沃ニシテ灌溉宜シキヲ以テ農産極
メテ多ク穀物蔬菜ノ類殊ニ能ク熟ス山林ヨリハ
薪炭良材ヲ出シ又飛禽走獸ノ産アリ諸川ハ皆河

香長洲神社之圖



魚ヲ出シ海濱ハ頗ル漁利ニ富ミテ年々數万圓ノ
收穫アリ西南山地ヲ除クノ外ハ道路平カニシテ
陸運甚便ナリ水運ニハ雲出川アリテ筏ヲ下ダス
ベク又船ヲ通ズベシ實ニ此郡ノ如キハ地利ニ富
ミテ縣下最良ノ地ト稱スベシ

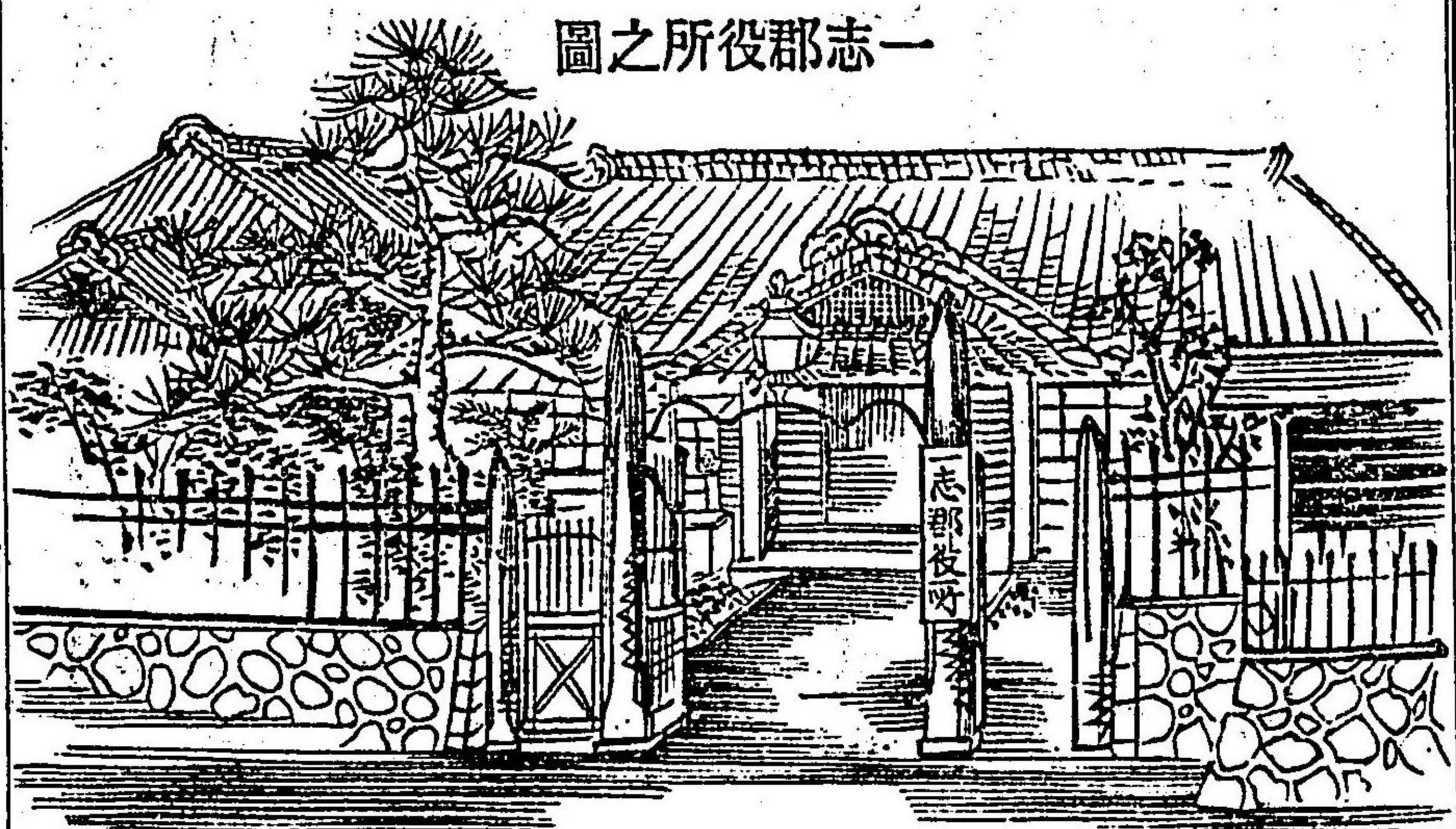
第七、街道

郡内ヲ通ズル街道ハ伊勢街道、初瀬街道、奈良街
道、中街道ノ四ツアリ伊勢街道ハ安濃郡境ナル
小森上野ヨリ島貫、三渡ヲ經テ久米ヨリ飯高郡
ニ出ヅ其里程凡四里ニシテ電信線ヲ架セリ道路
平潤ニシテ參宮旅人ノ往來繁ク車馬絡繹トシテ

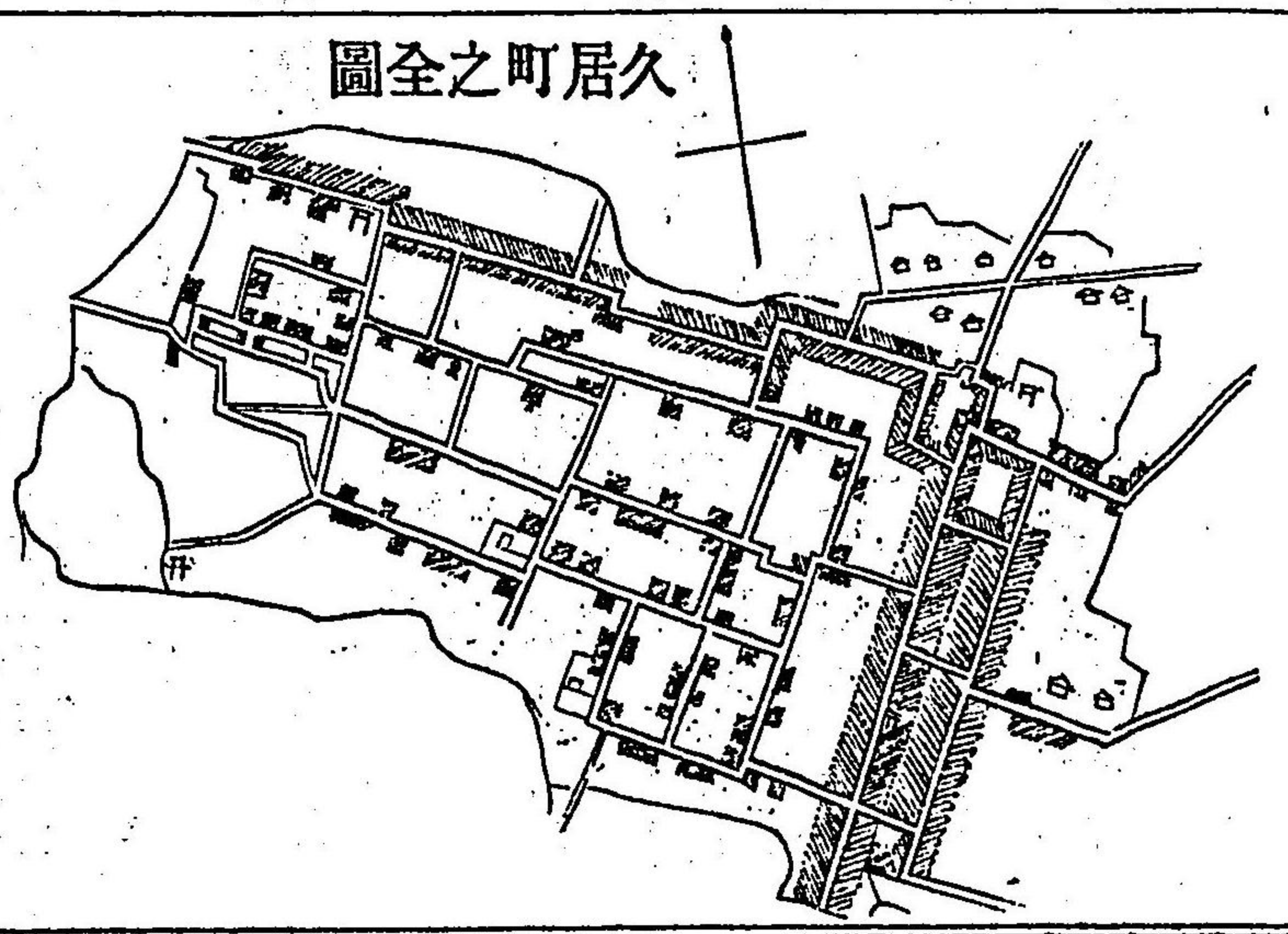
絶エズ又初瀬街道ハ三渡
ニテ伊勢街道ヲ離レ田尻
大村ヲ過ギ垣内ヨリ伊賀
ノ國ニ出デ奈良街道ハ島
貫ニテ伊勢街道ヨリ分レ
久居ヲ經、稻葉村ヨリ安
濃郡ニ出ヅ又中街道ハ飯
高郡ノ境ナル上多氣ヨリ
杉平ヲ過ギテ大和ノ國ニ
至レリ

第八、市街宿驛

一志郡役所之圖



久居町ハ郡ノ東北部ニア
 リテ安濃郡ノ境ニ近シ市
 坊八西藤跡町、東藤跡町、萬町、幸町、二
 旅籠町、寺町、本町、二ノ町ニ
 シテ戸數六百七十七人口
 三千八百四十九アリ一志
 郡役所、久居警察署、久居
 郵便局、安濃津區裁判所
 出張所、三重縣直稅分署
 間稅分署等ノ諸官衙アリ
 ト雖其久居藩ト稱セシ頃
 ニ比スレバ人家減少シテ大ニ舊時ノ觀ヲ失フ所



アリ

久居町ノ南、雲出川ノ北岸ニ桃林アリ寛政中培
 植スル所ニシテ民家其中間ニ點在セリ其東ニ當
 レル桃園村ノ桃園モ亦雲出川ノ北岸ニアリテ園
 地尤廣ク株數頗ル多シ概子元文中植ウル所ニシ
 テ村民之ニ資リテ生業ヲ助ク其每歲得ル所二千
 五百圓ニ下ダラズト云フ兩處共ニ花候堤上ノ觀
 恰モ錦繡ヲ布クガ如ク來遊スル者群ヲナセリ
 島貫ハ雲出川ノ北岸ニ三渡ハ三渡川ノ南岸ニア
 リ共ニ人戸多カラズト雖商店軒ヲ連子テ市街ノ
 狀ヲナセリ

田尻、大村、垣内ノ三所モ亦市街ノ觀ヲナス其中
大村ハ人家多クシテ稍繁華ナリ又垣内ハ阿保山
ノ麓ニシテ伊賀ノ境ニ近ク旅店數軒アリ後來阿
保ノ山路平夷トナリ兩國ノ交通便利トナルニ至
ラバ人馬ノ往來多キヲ加ヘ自ラ此地ヲ益スルコ
ト尠カラザルベシ

第九、舊跡

本郡ハ南朝ノ頃北畠氏ノ所領ニ屬シ其族各地ニ
城砦居館ヲ構ヘシヲ以テ舊跡ノ今ニ存スルモノ
極メテ多シ其著名ナルモノハ多氣、阿坂ノ兩城
趾及ビ北畠館趾等トス

北畠館趾之圖



多氣城趾ハ郡ノ西南、下
多氣ノ山上ニアリ此城ハ
建武二年北畠親房ノ第三
子顯能ノ築キシ所ニシテ
世々之ヲ府城トナセシガ
七世具教ニ至リテ遂ニ織
田信長ノ爲メニ亡サレ今
ハ其地荒蕪セリト雖城壁
ノ跡歷々之ヲ徵スベシ
北畠館趾ハ上多氣ニアリ
テ多氣城趾ノ東南ニ當レ

リ國司北畠顯能居館ヲ此地ニ構ヘ諸士ノ第宅ヲ
繞シテ堅固ナル廓ヲ作リシガ天正中遂ニ兵火ニ
罹リテ燒ケ失セタリ今ノ北畠神社ハ其館趾中ニ
アリテ傍ノ小池ハ往時庭前ノ泉水ナリシト云フ、
阿坂城趾ハ郡ノ東南部、阿坂村ニアリテ俗ニ白
米城趾ト稱ス高サ八百尺余ノ山上ニアリテ壁壘
ノ跡今尙ホ存セリ此城ハ北畠ノ家臣大宮氏ノ世
世守レル所ナリシガ永録中木下秀吉、織田信長
ノ命ヲ受ケテ攻メ來ルニ及ビ遂ニ破レテ陥ルニ
至レリ是ヨリ先キ足利氏ノ兵來リ圍ミテ城ノ水
路ヲ絶チシコトアリ時ニ城兵白米ヲ以テ馬ヲ洗

ヒシカバ敵兵之ヲ見テ水アリトナシ自ラ圍ヲ解
キ去レリト云フ故ニ人此城ヲ呼ビテ白米城ト稱
スルナリ

其他久居町ニハ御殿跡アリ今ヲ去ルニ二百余年前
久居ノ藩祖藤堂高通、居館ヲ此地ニ築キンヨリ
藩主代々此ニ在リシガ明治四年廢藩ノ後遂ニ廢
レテ耕地トナレリト雖今尙ホ久居神社アリテ藩
祖ノ靈ヲ祀レリ

第十、社寺

一神社、本郡ニハ神社ノ數九百十三アリ中ニモ
最著シキハ前ニ學ゲタル香良洲神社ニシテ縣社

ノ一ナリ其他美濃田ノ敏太神社、八太ノ波多神社、上多氣ノ北畠神社、川上ノ若宮八幡神社等モ亦名アリ若宮八幡神社ハ郡内ノ舊社ニシテ仁徳天皇ヲ祀レリ域内ニ津藩主藤堂氏ノ植エタル藤樹アリ里人之ヲ御手植藤ト稱ス祭時人ノ參詣スル者甚多シ

二寺院、寺院ノ數ハ二百三十四アリ青巖寺、天花寺ハ郡内ノ舊寺ニシテ上ノ村ノ成願寺、波瀨村ノ安樂寺モ亦其著名ナルモノナリ其他大仰ノ誕生寺ハ眞盛上人ノ誕生地ニシテ飯福田ノ飯福田寺ハ飯福田山上ト稱シ役小角ノ開基ナリト云

フ

第十一、人情風俗

人情朴直、風俗質素ニシテ能ク職業ヲ營ムト雖時勢ノ變遷ニ從ヒテ往々輕薄遊惰ノ弊ニ陥井ルヲ免レズ今ニシテ之ヲ芟除スルニアラザレバ古來ノ良風美俗ヲシテ地ヲ拂フニ至ラシムベシ

第十二、生業

郡民ハ重モニ農業ヲ務ムト雖山間僻陬ノ地ニ至リテハ間々伐木採薪ヲ業トスルモノアリ又市街ニ住ムモノハ商業ヲ營ミ海濱ニアルモノハ漁業ヲナスヲ常トス工業ハ之ニ從事スルモノ少ク養

蠶ノ業ハ近時年々追ヒテ益盛大ナルノ傾向アリ

第十二、産物

農産物ハ米麥粟黍大豆菜種蕎麥藍甘薯烟草綿椎茸漆汁葛茶繭等ナリ就中米ハ其品質尤良ク其産額モ亦縣下第一ニシテ一志米ノ名廣ク四方ニ聞ユ水産物ノ主ナルモノハ鯁鯉鱒鮓鱸鱒香魚鰻等ニシテ工産物ハ僅ニ木綿織及ビ種油アルノミ其他又薪炭木材等ノ産物アリ

第十四、管轄沿革

(上古ノ管轄ハ錯雜ナルヲ以テ之ヲ畧ス)

本郡ハ延元三年北畠顯能伊勢ノ國司トナリテ後

二百有余年間其所領ニ属セシガ天正四年北畠氏亡滅ノ後ハ織田、豊臣ノ二氏相尋ギテ之ヲ領有セリ降リテ徳川氏ノ治世ニ及ビ郡地全ク久居、津、和歌山、三藩ノ分領スル所トナリ明治四年廢藩置縣ノ後、度會縣ニ属セシガ九年四月同縣ノ三重縣ニ合併スルニ至リテ終ニ三重縣ノ管轄ニ歸セリ十一年郡制ノ令ニ基キ郡内ニ一郡役所ヲ設ケ二十一年市町村制ノ發布ニヨリテ一町三十八ヶ村トナリ今ニ一志郡役所ノ治下屬シ三重縣廳ノ統轄スル所ナリ

